

日報ビジネス株式会社が発行している、環境と経済に特化した専門紙、

循環経済新聞（2021年2月22日付け）に、

新東京グループのグループ企業—(株)新東京開発代表の林信孝の FOCUS 記事

～グループの構想を円滑に実現 まだ眠る可能性を事業に生かす～ が掲載されました。



建設廃棄物等の処理を行う新東京開発（本社・千葉県松戸市）では、1月29日付で林伸孝氏が代表取締役社長に就任した。今後、同社をどのように経営していくのかを尋ねた。

— 新社長就任にあたっての意気込みは。
林 私はかねてより産業廃棄物処理業界に身を置いており、法律や処理ノウハウの知識、培ってきた

グループの構想を円滑に実現

新東京開発 代表取締役社長 林伸孝氏

まだ眠る可能性を事業に生かす



さまざまな信頼関係があるため、それらを最大限に活用することで堅実に従業員を導いていきたい。また、新東京グループとしての取り組みを意識し、グループ全体で共有するイメージの実現が円滑に進むように各社と連携していければと考えている。

新東京グループは

すでに、環境事業をエネルギー分野や物流業界と連携させることを視野に入れて取り組みを進めている。この先見性に富んだ優位性を最大限に生かすために、私もグループの一員として必要な能力と視野の広さを培って

のエコロジスタ（同県柏市）との連携をさらに強化する。お互いの長所を生かし、顧客により質の高いサービスを提供していきたい。

これは、環境事業の拡大と収益強化や事業拡大といった企業方針の礎を大切にしながら、「事業体が世間からどのように見られているか」といった客観的な評価を意識した経営が必須となる。世界的に環境意識が高まっている時勢の中で、当社は目標実現を目指して事業拡大に挑戦し、サステナブルな社会の実現に貢献していく所存だ。

具体的ところで、新東京工場（千葉県白井市）周辺エリアでの競争力強化を図るために、同グループは常に高く、今の業績

取組むを先行している。手始めに、回収する資源の種類を増やしてリサイクル率を引き上げた。当社の工場が有するポテンシャルは非常に高く、今の業績